

OpenStackをあなたの手で体感し、  
身につけられるプログラムをご用意しています。

Red Hat OpenStack Administration	
コースコード	CL210
コース概要	システム管理者向けのこのコースでは、インストール、設定及び保守を含む、Red Hat OpenStackを使用したクラウドコンピューティング環境の実装方法を学習します。 受講生は、ハンズオンラボを通して、Red Hat OpenStackの各種設定や運用の方法を学習するとともに、OpenStack 開発コミュニティの将来計画についても確認することができます。
コース内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・Course Introduction</li><li>・Red Hat OpenStack Architecture</li><li>・Red Hat OpenStack Installation</li><li>・Message Broker</li><li>・Identity Service</li><li>・Object Storage Service</li><li>・Image Service</li><li>・Block Storage Service</li><li>・Network Service</li><li>・Compute and Controller Services</li><li>・Red Hat OpenStack Redundancy</li><li>・Orchestration Service</li><li>・Metering Service</li><li>・Future Direction of Red Hat OpenStack</li><li>・Comprehensive Review</li></ul>
受講対象者	・プライベートクラウドの管理に責任を持つLinuxシステム管理者およびクラウド管理者 ・RHCSA認定または同等レベルの知識をお持ちであることを強く推奨致します。 ※適切なスキルセットの知識を持っているかどうか分からない場合は、以下のオンラインスキルチェックで確認してください。 <a href="http://jp.redhat.com/resourcelibrary/articles/training-skills-assessment-apac">http://jp.redhat.com/resourcelibrary/articles/training-skills-assessment-apac</a>
日数/時間	4日間 9:30-17:30
標準価格	216,000円(税別)

エキスパート認定試験 – Infrastructure as a Service –	
コースコード	EX210
試験概要	Red Hat OpenStack の認定資格の取得を目的として、提供される試験です。 Red Hat Enterprise Linux OpenStack platform を使用した、プライベートクラウドの作成、設定、管理を行うためのスキル・知識を評価します。試験は実技を使ったハンズオン形式で行われます。
受験対象者	・Red Hat Enterprise Linux OpenStack Platform の使用スキルを証明したいと考えているシステム管理者 ・RHCSA 認定または同等レベルの知識をお持ちの方 <a href="http://jp.redhat.com/resourcelibrary/articles/training-skills-assessment-apac">http://jp.redhat.com/resourcelibrary/articles/training-skills-assessment-apac</a>
試験時間	3時間
標準価格	90,000円(税別)

コース/試験実施スケジュール ▶ 別途スケジュールをご参照ください。▶ <http://jp-redhat.com/training/value/> → 「最新コーススケジュール」

開催会場	品川御殿山会場 <a href="https://www.jtp.co.jp/service/education/access/gotenyama/index.html">https://www.jtp.co.jp/service/education/access/gotenyama/index.html</a> 日本サードパーティ株式会社 クラウドコンピューティング教育センター内 〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー ※最寄り駅 JR品川駅高輪口よりシャトルバス5分	お問合せ レッドハット株式会社 研修サービス部 03-4510-2595 もしくは <a href="mailto:training-jp-admin@redhat.com">training-jp-admin@redhat.com</a> までお願い致します。
------	--	--

レッドハット株式会社  
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-1-18 恵比寿ネオナート  
TEL: 03-5798-8500(代表) <http://www.jp.redhat.com>

お問い合わせ セールスオペレーションセンター (SOC)  
TEL: 0120-266-086 (携帯電話からは03-5798-8510)  
E-mail: [sales-jp@redhat.com](mailto:sales-jp@redhat.com)



Copyright © 2017 Red Hat, Inc. Red Hat, Shadowmanロゴ、JBossは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。LINUX は米国及びその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。OpenStack®のワードマークとOpenStackのロゴは、米国とその他の国におけるOpenStack Foundation の登録商標/サービスマークまたは商標/サービスマークのいずれかであり、OpenStack Foundationの許諾の下に使用されています。Red Hatは、OpenStack FoundationやOpenStackコミュニティに所属しておらず、公認や出資も受けていません。その他、記載されている会社及び製品の名称は、各社の商標または登録商標です。

# Red Hat OpenStack Training Guide



[jp.redhat.com](http://jp.redhat.com)

# OpenStackを 学ばなければ 生き残れない?

クラウド時代の今、  
「あなたが  
OpenStackを  
学ぶ理由」

さあ、  
あなたも、  
ここから!

ビジネスを担うITの未来、  
ITエンジニアをキャリアアップに  
導くプログラムがここに。

# クラウドの核となるのはオープンソース。 あなたがOpenStackを学ぶことは企業への貢献と自身のキャリアアップを両立できるチャンスです。

## クラウドでビジネスを変革するOpenStack

今、多くの企業がクラウドを自社のIT基盤に活用しており、その動きはさらに加速しています。クラウドが特徴的なのは従来のシステムのリプレイスとは違い、今まで活用していた業務アプリケーションを仮想サーバとして取り込みながら、新たに構築するアプリケーションとともに稼働させられることです。それ故にIT担当者には「何を残し、何を捨てるか」、「どのようなテクノロジーを選択して、いかにクラウドを構築するか」が問われます。

レッドハット株式会社 グローバルサービス本部 シニアソリューションアーキテクト クラウドエバンジェリスト 中井悦司氏は次のように語ります。

「企業においては、ビジネスの状況に応じて柔軟に対応できるIT基盤が常に求められてきました。その流れの中でクラウドが生まれ、新しいテクノロジーがどんどん登場しています。例えばパブリッククラウドサービスでは、マルチテナント型のポータルサービスのようにシステム管理者にいちいち頼まなくてもユーザー自身が設定を行うことで、必要な時に必要なリソースを活用できるようになっています。さらに自動化に類する機能も生まれ、データやアクセス量に応じてリソースを増やす、あるいは必要でないサービスのリソースを減らすこともできるようになりました。

実際、SNSやオンラインゲームのプロバイダーはもちろんのこと、一部の先端企業ではリソースを自由に増減できることを前提にしたシステムの設計やアプリケーションの開発を始めています。

この動きはパブリッククラウドで確立されたテクノロジーが企業のIT標準となりつつあることを示しています。一方、多くの企業においては超えられない壁が存在します。中井氏は次のように続けます。

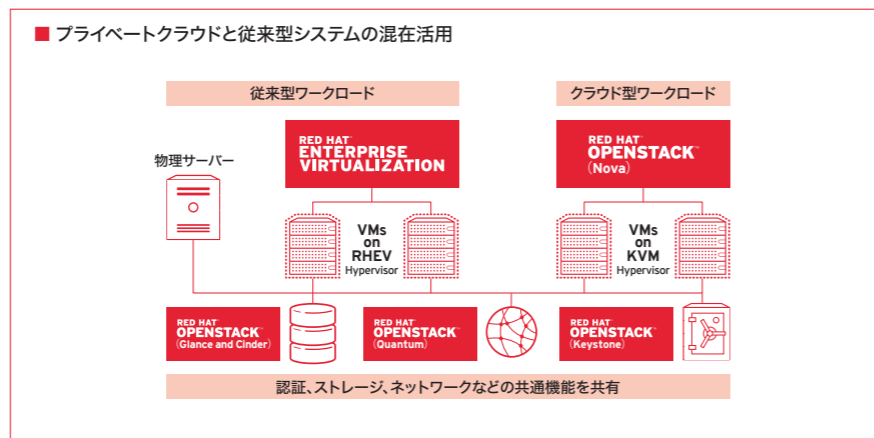
「とはいえ多くのエンタープライズシステムでは、アプリケーションのアーキテクチャや業務プロセスが、リソースを自由に増減できない前提で設計されており、そのままクラウドに置き換えても上手くいきません。だからこそ今、エンタープライズの企業に求められているのはクラウドの新しい機能であるセルフサービス、APIによる自動化を活用する前提でシステムの設計や業務プロセスを見直すことです」。

では、そこにOpenStackはどう貢献するのでしょうか？

「OpenStackはオープンソースの価値を最大限に享受できるテクノロジーです。お客様の中には「我々はオープンソースを使いたいのではない、その時々で最適なものを選択したいだけ」とおっしゃる方もいます。しかし、過去に縛られてしまう状況の中で「その時々で最適なものを選択」できるのでしょうか？オープンソースの本当の価値は過去に縛られない状況を提供することなのです。そして過去に縛られないからこそ、技術の進化を取り込みながらシステムを進化させられるのです。すべての仕様が公開された業界標準技術としてのオープンソースソフトウェアにより、過去のシステムと新しいシステムの移行・連携が可能になり、システムの継続性が維持されます。

実際に海外でOpenStackを活用しているお客様も、単純にオープンソースだからOpenStackを選択したというわけではなく、自分たちが目指していたことを実現できるのはOpenStackだけだったと証言されています。ひと言で言うならばシステムの置き換えではなくビジネスの変革のためのテクノロジーと言うことではないでしょうか」。

「OpenStackは世界的に活用されているテクノロジーであると同時に、システムの置き換えではなく変革を実現する力を秘めています」



## なぜOpenStackを選び、学ぶべきか？

システム管理者・技術者の方がOpenStackを選び、学ぶべき理由もまさにそこにあります。

「OpenStackを選ぶべき理由としては、今までパブリッククラウドで培われてきたクラウドならではの機能を標準として実装しようとしているテクノロジーであることが挙げられます。従来からプライベートクラウドという言葉はありましたが、その多くは仮想化統合基盤であって、本来のクラウドと言える機能が実装されていなかったのが事実です。

そもそもOpenStackの出発点はRackSpaceという企業が自社でパブリッククラウドのサービスを実現しようとしたことにあります。つまりOpenStackでプライベートクラウドを構築することは、パブリッククラウドを目指した技術を自社内で活用するという他に他なりません。またパブリッククラウドのテクノロジーをプライベートクラウドに活用していれば、プライベートクラウドとパブリッククラウドを組み合わせた利用も容易になります」。

「次にOpenStackを学ぶべき理由ですが、クラウドは今までのIT基盤の集大成と言えるものです。サーバ、ネットワーク、ストレージ、あらゆる技術を統合的に組み合わせながら、システムを構築する必要があります。どれか一つのテクノロジーで成り立つものではありません。OpenStackはオープンソースで中身が見えているので評価・検証が容易で、カスタマイズの自由度も高く、一つのシステムとしてインテグレーションしやすいメリットがあります。さらに日々進化するテクノロジーを取り込んで新しいものを生み出し、企業や社会の発展に貢献できる力があると思います」。

## クラウド時代に生き残るスキルは、総合力

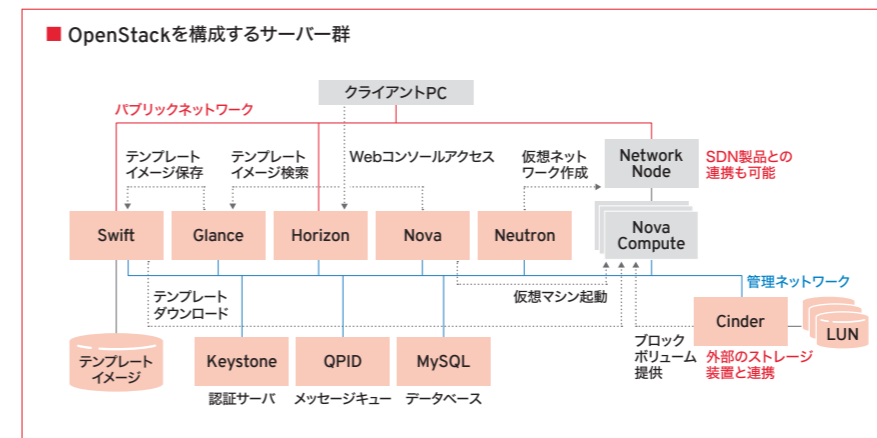
「クラウドの登場により、ITのアーキテクチャやIT担当者のスキルセットがリセットされたのではないのでしょうか？

そもそもITの黎明期には、IT担当者は総合的なスキルが求められていました。しかしITの進化とともにテクノロジーが複雑化するにつれ、データベース担当、業務アプリケーション担当、ネットワーク担当など分業化されていきました。それと同時に、このハードウェアとこのアプリケーションの組み合わせなら大丈夫という、いわゆる鉄板構成が作られていきました。しかしクラウドの世界はパッケージでは語れません。さらに管理においては総合的な知識が求められます。この新たな胎動はITエンジニアに変化を求める一方で、総合的な知識を得る良いチャンスをもたらすと言えるのではないのでしょうか？」

## レッドハットのOpenStackトレーニングの特長

レッドハットのOpenStackトレーニングの特長は、マニュアルに書かれた座学の知識だけでなく、実際に環境を構築しながら実践に即した知識を体得できることです。前述のようにテクノロジーは進化しますが、根本的な仕組みと現実の対処法を理解することにより新たなテクノロジーにも確実に対応できるようになります。

更にはコースの提供とともに認定試験も実施しており、認定資格を取得した方はクラウド時代に適応した実践的なスキルを証明することが可能です。また、クラウド技術に関連したOS、仮想化、ストレージのトレーニング/認定試験も提供しております。



クラウドはITをリセットしました。分業から総合的作業に変わり、ITエンジニアは新たなスキルを習得するチャンスです。